

企画名：「タネ」が生み出す地域の未来②～オンラインコミュニティを通じた関係づくり～

団体名：特定非営利活動法人ホールアース研究所

1. 報告要旨

「グローバル化・規格化によるタネの地域固有性や多様性の喪失」という課題が、私たちの身近に迫っている。この課題に対する解決を目指す方法の一つを「タネの社会化（一人ひとりが食や農作物、タネに対して興味や関心が高まっている状態）」と捉え、本プロジェクトを実施してきた。2018年度に富士山麓で実施した第一回以来検討を重ね、本年度は完全オンラインへと形式を変更し、全8回のプログラムを行なった。実施に当たっては、「オブザーバーを含めた参加者が有機的につながり、各地の事例が報告されたり、各分野の専門家からの多角的な視点のアドバイスが共有される状態になる」という目標を掲げ、前半は第一回参加者を中心とした固定メンバーでの交流を、後半はゲストや新たな参加者を招き「タネの社会化」の具体化を目指した対話を重ねた。これら各回間のオンライン上でのコミュニケーションと合わせ、プロセス的な学びの醸成とコミュニティの形成を目指した。オンライン実施の特性上、webツールへのリテラシーが一つの障壁となったものの、想いを同じにする仲間との交流や場としての価値を参加者同士で作りに上げていくプロセスに関わるにつれ、コミットメントが高まっていった。参加者側から回のゲストに自ら立候補して対談の場を作ってくれたり、話足りない部分を回の終了後に残って議論したりする様子があった他、最終回の終わりに参加者同士で次の具体的なイベントが企画されたことは、目標に対する大きな成果ではないかと考える。新型コロナウイルス感染症の影響により止む無くオンラインとなったが、中長期的なプロセスの中で多面的な交流を丁寧に深めることができ、場所等の制約に縛られずにつながることのできるコミュニティの土台が形成できた事は、今後の「タネの社会化」に向けた動きにおいてむしろ大きな価値をもつと捉えている。オンラインでのコミュニケーションが継続するような声かけを続けつつ、参加者が主体となったコミュニティの維持や発展を目指すとともに、これまでのプロセスをできる限りオープンにしながら多様な人材を巻き込んでいくことで、「タネの社会化」に向けた具体策の可能性を引き続き検討していきたい。

2. 成果物

1. 全8回の[オンラインミーティング](#)（4か国から延べ参加人数138名）
2. [Miro](#)（現段階では日本語のみ）
3. [MTG動画](#)（録画のうち対談部分を切り取ったもの）
4. 田原真人「[AI翻訳ツールを活用した多言語国際ワークショップの実践！「タネが生み出す地域の未来（Seeds For Local Future）」（その1）」](#)（2022.2.19）
5. 同上 [FB記事](#)（2022.2.19）
6. 玄道優子「[タネを守ることは命を守ること 知ることから始まる私たちの未来の守り方](#)」（2022.1.11）
7. 姜咲知子 [FB記事](#)（2022.1.29）
8. 印鑰智哉 [FB記事](#)（2022.1.22）
9. 鈴木一正 [FB記事](#)（2021.11.13）
10. Yu-Chun Chan [FB記事](#)（2021.1.19）
11. 井東敬子 [FB記事](#)（2022.2.10）
12. （第二回）ランイン氏 発表資料「[広西都均県での年次総会](#)」（2021.11.18）
13. （第二回）鈴木氏 発表資料「[Seeds for local future](#)」（2021.11.18）
14. （第三回）下氏 発表資料「[在来種の種の運動現況](#)」（2021.12.6）
15. （第三回）林氏 発表資料「[小米と台湾の保護 生物文化保存の共有](#)」（2021.12.6）
16. （第六回）ランイン氏 発表資料「[社会化農業と青年育成](#)」（2022.1.27）
17. （第六回）林氏 発表資料「[在地型小米種子銀行](#)」（2022.1.27）

18. (第七回) 宮田氏 発表資料「[種からみえること](#)」(2022.2.10)

19. (第七回) 蔣氏 発表資料「[六不使用生態農業の理論と実践](#)」(2022.2.10)